

図書だより

種子島中央高等学校図書館
令和3年 7月号

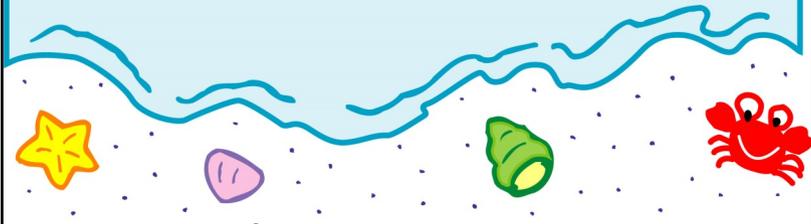
さあ、いよいよ待ちに待った夏休みですね。補習や部活、課外活動と忙しいかもしれませんが、まとまった休みに読書にも取り組んでみませんか。今までなかなか手を出せなかった長編やシリーズ物、ちょっと難しそうなテーマの新書。夏の暑さを忘れさせてくれるホラーやサスペンス小説など…。図書館ではいろいろなジャンルの書籍を用意して皆さんの来館をお待ちしています。



～夏の特別貸出はじめます～

夏の特別貸出として夏期休業前の7月12日（月）から一人5冊まで貸出を行います。貸出期間は新学期の9月3日までです。

現在借りている本がある人は一旦返却をして、再度12日以降に貸出手続きをすると5冊まで借りられます。



借りっぱなしの本がある人は、早目に返却してください!!

夏期休業中の図書館開館日（時間9:30～16:45）

月	火	水	木	金
		7/21	22	23
26	27	28	29	30

□…開館日, ■…休館日



月	火	水	木	金
8/2	3	4	5	6
9	10	11	12	13
16	17	18	19	20
23	24	25	26	27
30	31			

図書委員おすすめの本

7月

「君の臍臓をたべたい」住野よる/著 双葉社

主人公である「僕」は病院で偶然「共病文庫」というタイトルの文庫本を拾う。それは「僕」のクラスメイトである山内桜良が綴っていた秘密の日記帳であり、臍臓の病気により彼女の寿命がもう長くはないことが記されていた。「山内桜良の死ぬ前にやりたいこと」に付き合うことで、「僕」「桜良」という正反対の性格の二人が、互いに自分に欠けている部分に憧れを持ち、徐々に心を通わせていきながら成長していく。

3-2 元川 愛美



辻村 深月

ツナグ

「ツナグ」辻村深月/著 新潮社

使者（ツナグ）とは、たった一人と一度だけ死んだ人と合わせてくれる案内人 運良くたどり着けた場合でも、ツナグを介して生者と死者が会うのにはいくつかのルールが存在する。また、ツナグの側にもルールがある。

果たして会いたかった死者に会うことで、生きている人たちは救われるのか。人生は変わるのだろうか。

3-3 小村 優華



「青の数学」王城夕紀/著 新潮社

雪の日に出会った女子高校生は数学オリンピックを制した天才だった。その少女、京香凜（かなどめかりん）の問いに、栢山（かやま）は困惑する。「数学って、何？」——。若き数学者が集うネット上の決闘空間「E2」。ライバルと出会い、競う中で、栢山は香凜に対する答えを探す。ひたむきな想いを、身体に燻る熱を、数学へとぶつける少年少女たちを描く青春小説。

3-3 永濱 あみ



読書感想文に挑戦!!

夏休み課題の難関とも言える(!?)読書感想文。読書感想文は「考える読書」とも言われています。本を読み、「書く」ことで著者が言いたかったことに思いをめぐらせ、深く思考し、その思いや考えを論理的で説得力のある文章にまとめる練習です。そこで今回は読書感想文の基本的な書き方を紹介します。

STEP1 本を選ぶ

課題図書はもちろん、どんな本でもかまいません。迷った時は「関心が持てる」「共感できる」内容の本を選んでみましょう。

STEP2 内容・構成を考える

「本は読んだけれど何を書けばいいのか分からない。」とならないように「ポイント」を順に書き出していきます。

- ①本のあらすじや選んだ理由簡潔に書いてみる
- ②心に残った部分を抜きだしてみる
感動、共感、衝撃、疑問を感じた部分など

ここで終わっちゃダメ!



③②で書いたことを深めたり、自分の生き方や経験を本の世界と照らし合わせたりする。ここが読書感想文の**メイン**です!!どこに感動した?なぜ感動した?自分だったら…。そこでこんなことを連想した…。など、しっかり自分と本の世界とが重なり合っている感想や気づきを書けているかが重要です。それから順序を入れ替えたり内容を補ったりして、どう書けば自分の心の動きにぴったり合うのか、そしてそれがうまく人に伝わるのかを考えましょう。

④まとめてみる

この本を読んで感じたことや考えたこと、そのことで自分の中で起きた変化や今後の自分に生かしていきたいことなどをまとめてみよう。

STEP3 書く

原稿用紙や課題用紙に実際に書いてみましょう。読み返して誤字や改行・引用の仕方など間違いがないか確認しましょう。

…どうです、何となく書けるような気がしてきたでしょ?

第67回青少年読書感想文コンクール課題図書(高校)

図書館にありますよ!

字数は
2,000字以内
詳しくは
図書館へ



『水を縫う』 寺地はるな著

刺繍が好きな高1の清澄(弟)がかわいいものが苦手な姉、水青のためウエディングドレスを手作りすると宣言してー。清々しい家族小説。



『科学者になりたい君へ』 佐藤勝彦著

「どうすれば科学者になれるのか?」研究生活、論文、ノーベル賞、科学の面白さ…日本の科学研究を牽引してきた著者が実例を交えて案内する。科学を見る目がガラッと変わる一冊。



『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ボイン著 原田勝訳

僕のヒーローは4歳上の兄だ。その兄が告白した。自分は「トランスジェンダー」だと!LGBTの若者の思いを誠実に時にはコミカルに描いた青春小説。

今月の「図書委員会おすすめの本」でも紹介された「青の数学」「ツナグ」も新潮文庫ワタシの一行大賞対象図書(高校生に読んで欲しい50冊にて紹介中)です。

